

### 1 研究のねらい

本校ではこれまで、東中学区にある小学校との交流・連携が十分とは言えず、各種の情報の交換も希薄であった。そのことから、教育活動の様々な分野で児童・生徒及び教職員が交流を深めながら、連携・協力することで、各校の進路指導、生活指導、学習指導の一層の充実を図る事をねらいとし研究及び実践を行った。

### 2 研究の内容

校長会議で決定した実施計画に基づき、企画会議で具体的な推進計画を作成、事務局は東中学校とし、各校の行事予定を調整し回数・方法を確定して実施した。

#### (1) 児童・生徒の連携に向けた活動の研究及び実践

ア 児童会・生徒会の交流及び協同活動を行った。

イ 小学校の運動会等の学校行事における中学生のボランティア活動（奉仕活動等）を行った。

ウ 中学校の部活動と小学校のクラブ活動（または個人）の交流活動を行った。

#### (2) 教員同士の連携に向けた活動の研究及び実践

ア 算数・数学の学力向上に向けた研究協力を行った。

イ 生活指導関連の協同活動（児童・生徒の情報交換や地域パトロール等）を行った。

ウ 研究授業で小・中学校相互の参観・協議を行った。

エ 学校・学年行事などでの交流活動を行った。

#### (3) P T Aや地域との連携に向けた活動の研究及び実践

ア P T A同士の交流（講演会や講習会等）を深めた。

イ P T A活動において児童・生徒のための連携（講演会等）を図った。

ウ 地域行事への参加や地域でのボランティア活動を計画・実施した。

エ 計画の内容や実施状況を広く地域に周知した。

オ 職場訪問・体験の実施に際し、地域のロータリークラブとの連携を推進した。

カ ゲストティーチャーとして地域の人を招聘し、“地域の人が先生”を実施した。

#### (4) その他の連携に向けた活動の研究及び実践

ア いろいろな機会を捉え、広報活動を実施した。

### 3 研究の成果

前年度より取り組んできた、小・中学校連携推進を更に進める形で研究計画を作成し、以下の4点の成果を上げた。

- (1) 児童・生徒の連携に向けた活動の研究及び実践については、互いの運動会や学習発表会・展覧会時に、ポスターや招待状の配布や招待席の用意等を行い、準備で生徒のボランティアを募り活動することにより、相互交流をしようという意識をもった多くの児童・生徒が育っている。また、多くの参観者にも来ていただくことができた。最も大きな成果としては、児童会と生徒会の交流があげられる。特に後期生徒会の、“生徒の力を結集して、社会や地域との輪を広げよう！”というスローガン・活動方針にあるよう

に、生徒が小・中学校連携の推進を積極的に進めて行こうとする意識が芽生えた。

- (2) 教員同士の連携に向けた活動の研究及び実践については、お互いに市教育委員会の学力向上推進指定校及び研究奨励校として研究を進めている中で、特に算数・数学の研究授業や協議会に教員が参観・参加し意見交換や交流・連携が図られた。これは、これからの研究発表に向けて良い刺激となり、なお一層の研究協力が図られる事と思われる。また、数学だけにとどまらず他教科の連携も今後の課題として継続的に連携を進めていく。例年実施されていた小・中学校交流会も、今年はより広く、深くをモットーに実施し、児童・生徒指導上の成果があり、各校の進路指導、生徒指導、学習指導の一層の充実を図ることができ、学区域小学校との交流・連携については、大きな成果を出すことができた。また、各種の情報も広く、深く交換・共有することができ、より一層の児童や生徒理解につながった。
- (3) P T Aや地域との連携に向けた活動の研究及び実践については、まず、P T Aとして児童・生徒の健全育成に向けた講演会を相互で開催し、案内状をお互いの保護者あてに配布・案内した。成果とし、相互に多くの参加者があったことはもとより、児童や生徒の“子そだて支援”について理解する一助になったとの声が多く寄せられた。また、小学校P T Aとの協力・協同した活動としては、夏の地域主催のお祭りでのパトロール活動があげられる。時間帯などの調整や、情報交換を行った結果、安全な祭りを終えることができた。この活動については、今後も継続して協力・協同して実施する予定であるという反省会報告を受けた。地域との連携で一番大きな成果としては、地域ロータリークラブとの連携が図られたことで、例年は第1学年で実施していた職場訪問・体験を第2学年で実施することができた。また、内容も生徒の感想文などから例年にも増して充実していたことがうかがえた。
- (4) その他の連携に向けた活動の研究及び実践については、あらゆる機会を捉えて広報活動を行うことができた。具体的には、学校だよりをはじめ、各学年の保護者会、学校運営連絡委員会、定例のP T A常任委員会や役員会、また、保護司・民生児童委員・健全育成委員の方たちとの連絡会等の機会をとらえたり、自治会の方たち等への広報活動を展開したりした事により、十分な協力や理解を得ることができた。例えば、第2学年の取り組みとして、P T Aとの共催で、「地域の人が先生…地域の人をゲストティーチャーとして」開催した。最後に全体的な課題としては、今後も継続して小・中学校連携を推進していくことは勿論の事、小・中学校のみならず今年度以上に地域をも巻き込んだ**横断的組織「学区域連携推進委員会」**を作り、学校内の活動に参画いただき、学校側も計画的かつ積極的に地域の活動等に出ることによって**“地域教育プラットフォーム組織”**にしていく。また、中学生が地域メンバーの核としてリーダーシップやアイデンティティを向上させ、本校の教育活動に強い信頼をもってもらえるようになお一層の働きかけをしていく。

〈共同研究者〉

小金井市立東中学校	延 毅彦	小金井市立東中学校	江見 俊巳
小金井市立東小学校	小川 順弘	小金井市立東小学校	奥島 真